

## 第23回「震災対策技術展」横浜で自衛隊をPR

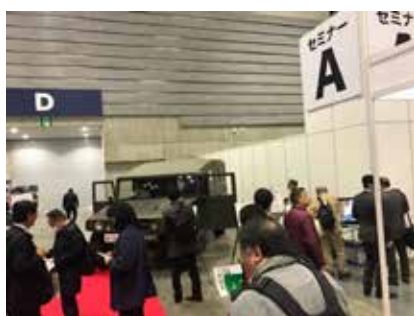
自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 兼本 貢祐 1海佐）は、2月7日（木）・8日（金）、パシフィコ横浜で実施された第23回震災対策技術展に参加し、約19,000名（主催者発表）の来場者に対して自衛隊をPRした。

本技術展は「震災対策技術展」横浜実行委員会が主催し、首都直下型地震や南海トラフ地震等への防災対応、近年多発している豪雨等の自然災害から首都圏の安全を守るため、最新の対策製品や技術、サービスを紹介する専門技術展である。当日、会場では200を超える企業のブースが並び、専門家によるセミナー等が実施されていた。

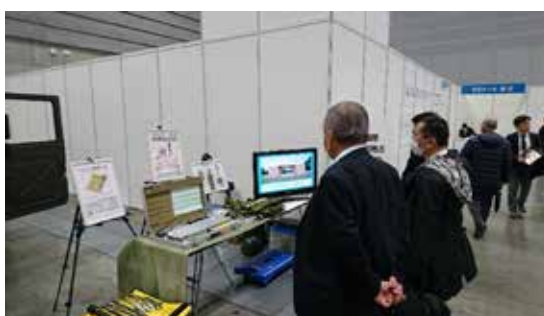
神奈川地本のブースでは、第31普通科連隊から支援を受け、高機動車、人命救助システムの展示、災害派遣活動や、ライフハックのDVD放映を実施した。

会場には、自治体等の災害対策の関係者も多く訪れていた他、来場された多くの人が足を止めて「この人命救助システムはどのように使うのですか」「ライフハックの映像はネットで見られますか」等、質問が多く寄せられ防災意識の高さが伺えた。また、高機動車を実際に乗車体験した人からは「災害派遣の現場で見たことがある」「思ったより大きい！何人くらい乗れるのですか」等、感想をいただくなど多くの人で賑わった。

神奈川地本は、「今後も積極的に自衛隊のPRに繋がる広報活動を実施し、1人でも多くの人に自衛隊の活動を理解してもらえよう努めていく」としている。



神奈川地本ブースに集まる人達



展示されたライフハックの映像や人命救助システムに多くの来場者が足を止めていた。



高機動車の説明をする第31普通科連隊の隊員

## 横浜市内のホテルで進路説明会

自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 平原 陸尉）は、2月21日（木）横浜市内のホテルで行われた進路説明会に、大学や専門学校、企業と一緒に参加し、高校1・2年生で卒業後の進路について自衛隊を考えている生徒に対し、自衛隊の仕事、入隊の要領、入隊後の将来等について説明を実施した。

開始早々、自衛隊に興味のある生徒がブースに訪れ、約30分という短い時間ではあったが、質疑応答を交えながら説明した。説明は、神奈川地方協力本部広報官の細谷 空曹と臨時勤務中の女性自衛官で第302高射搬送通信中隊所属の松本陸士長が実施したが、年齢が近くて質問し易かったのか、「昇任試験のレベルはどのくらいですか」「休みはどのくらいありますか」「免許は取得出来ませんか」等と矢継ぎ早に質問が飛び出していた。

また、スポーツクラスの生徒からは「体力的に大変ですか」と、やや不安そうに聞いている場面も見られ、入隊について真剣に考えている様子が窺えた。その他に生活面等の身近な質問も数多く出ていたので、営内生活での経験を丁寧に説明した。

上大岡募集案内所は、「今後もこのような説明会に積極的に参加し、なるべく対象者に近い隊員を活用して受験意欲の向上を図り、募集成果に繋いでいきたい」としている。



松本陸士長の説明に聞き入る生徒